

ニューソフィア

New Sophia

85号

[vol.23-0]

福岡歯科大学は「口腔医学」を推進しています

Greeting

理事長・学長 年頭挨拶

Featuring News

- 地域連携センター城南区金山公民館主催イベントにて歯科無料相談開始
- 福西会病院「第8回いきいき健康まつり」にて森田浩光准教授講演
- 国際交流 中国医科大学来学／上海交通大学来学

福岡歯科大学長に石川教授就任

Campus News

- 福岡歯科大学公開講座／福岡医療短期大学公開講座
- Q・Links主催 Q・conference 2014
- 教育支援・教学 IIR 室 電子黒板導入
- 口腔医療センター スマートフォンサイト開設

第10回健康まるごと福岡学園／第10回3大学合同シンポジウム

People

- 水田 祥代 常務理事
- 第73回 西日本文化賞受賞
- 平成26年度 文部科学省医学教育等関係業務功労者表彰
- 新任・昇任教員紹介
- 福岡医療短期大学保健福祉学科長再任

Events

- 第30回 献体者慰霊祭・実験動物慰霊祭
- 再生医学研究センター シンポジウム
- 福岡歯科大学学生会総会
- サンシャインシティ クリスマス・忘年会

From Alumni

同窓会だよ

Hill From Clinic

おぎの歯科医院(福岡県糸島市)
田代歯科医院(佐賀県唐津市)

Students & Parents

学生と保護者様からのメッセージ

Information

平成27年度 入試日程／福岡医療短期大学 特別奨学生決定

12

11

10

9

8

7

6

5

4

3

2

年頭挨拶

理事長

田中健藏



新年明けましておめでとうございます。皆様それぞれに良い新年をお迎えになられたこと存じます。今年はずいぶん未年の年です。「羊」が幸福や繁栄の象徴であったように、本年が福岡学園にとって、また本学の教職員、学生諸君そして同窓生の皆様にとって、平和で良い年になることを心から念じて止みません。

敗戦後70年、今世紀に入ってから15年目の今年を大転換の年という声もあり、予測困難な時代であり、また、私立学校法改正による学校法人運営の改善や認証評価制度の導入から10年近くが経過して、高等教育改革の必要性や質の保証が社会的に強く意識されるようになるなど、少子高齢化を含めて、大学を取り巻く社会環境は激しく変化し、大学に対する社会からの期待が一段と高まる中、大学はその役割を果たすため、これまで以上に自ら率先して大学改革に取り組み、求められております。

昨年、教育に関しては、大学・短期大学ともに認証評価受審に取り組み、また文部科学省「大学教育再生加速プログラム」に採択され、教育支援教学IR室の新設などを通して教育改革を推進することが出来ました。

研究に関しては、「私立大学戦略的研究基盤形成支援事業」の採択を受けた先端科学研究センターを再整備のうえ、再生医学研究センター、老化制御研究センターとともに個性ある先端的研究活動を促進することが出来ました。

診療については、医科歯科総合病院が日本医療機能評価機構の更新認定を受けたほか、新医療情報システムを導入し、診療環境が充実されました。口腔医療センターも着実に活躍しています。

社会貢献については、地域の医療機関における訪問歯科診療や地域連携推進協議会の開催を通して、自治体、医療関係団体及び地域との連携の強化拡充が図られております。

このように、学園の更なる発展を目指して様々な改革に取り組み、数多くの成果をあげることが出来ましたことを嬉しく思います。これもひとえに、教職員の皆様の不撓の努力によるものと厚く御礼を申し上げます。

本年は、2月に任期満了による福岡歯科大学長の交替が予定されています。6年の永きにわたる「歯学から口腔医学へ」をモットーに教育改革をはじめとする大学運営に大変なご盡力を頂きました北村憲司先生に心から感謝を申し上げますとともに、新たに大学長にご就任予定の石川博之先生には「口腔歯学部口腔歯学科」として、一層の充実発展に向けて、活躍することを期待しております。

本学園としては、引き続き、口腔医学の理念に基づいた教育を実践し、高度かつ先進的な専門知識と技術、そして豊かな人間性を有する高度専門職業人の育成に努めるとともに、「夢のある歯科医学・歯科医療」「学生が意欲をもって勉学し、同窓生が誇れる母校」「地域の歯科医療・医療への貢献」「国際レベルでの研究と国際交流の推進」を目指して、以下に述べます10項目を全学を挙げて取り組む本年の重点項目として、努力したいと思っております。

(口腔医学の育成)

1. 口腔医学を理念とする教育プログラムを編成するとともに、口腔医学の育成に向けて関係機関との戦略的連携事業を推進する。

(教育の質的転換)

2. 全学的な教育マネジメントを確立し、臨床実習重点化を含む高度かつ体系的な教育課程の形成・編成により、国際標準を超える高度専門医療人材の育成を行う。

(研究の質的転換)

3. 全学的な生命科学研究マネジメント体制を充実強化し、国際水準の研究成果を提供する。なお、1年後の第23回日本歯科医学学会学術大会(総会)の準備を行う。また、大学院の定員を確保するとともに、外部評価を充実し学位審査の厳格性を高める。

(優秀な学生の確保)

4. 三つのポリシーに基づき多様な選抜教育方法を開発し、「志己自強」の精神を有する者を積極的に確保するとともに、生涯に亘る学修のために必要な経済的支援等を検討する。

(国家試験対策等)

5. 国家試験結果の分析に基づく課題別対策指導を徹底し、新卒者合格率のトップクラス入りを実現する。歯科衛生士国家試験については全員合格を達成する。

(社会連携・国際連携の推進)

6. 地域連携センターを拡充整備し、地域、医療団体参画型の口腔医学育成事業を推進する。また、海外の大学との国際的な教育連携強化を推進する。

(安全で良質な医療の提供)

7. 新医療情報システムによる医科・歯科連携の強化、口腔医療センターのマネジメント体制を強化し、医療ニーズに応える良質な医療を提供し、教育プログラムを構築・実施する。新しい時代の総合医療、臨床教育、研究、地域貢献機能を有する病院建設を推進する。

(地域の保健・福祉への貢献)

8. 超高齢化の進展を見据え、先進的な口腔ケアシステムを構築し、介護老人保健福祉モデル事業を開発・推進するとともに、特養サンシャインセンターの開設を含めて、臨床教育・研究・研修機能を強化する。

(組織運営・財務)

9. 第3次基本構想(2017~2022)の策定及び構想実現に向け全学連携体制の強化を図る。また、財政基盤維持のため外部資金(補助金、寄付金等)募集活動を展開する。看護大学創設のための準備を鋭意進める。

(安全管理・法令遵守)

10. 新たな時代を見据えたキャンパス環境計画の策定、教育研究・医療・介護に係る各種情報の安全管理の徹底など、一人一人がその行動規範に責任を持ち、社会の信頼、共感を得られる事業活動を実践する。

以上を今年の重点項目として、全構成員が「志己自強」の精神で協力連携のうえ、教育研究・医療介護・地域貢献活動を戦略的に実践し、本学の存在意義を広く国民社会から認知されるよう努めたいと思っております。個々の知恵と力の結集こそが大きな推進力になるものと思っておりますので、皆様のご協力をお願いいたします。

最後に、皆様のご健康と学園の一層の発展を祈念して、新年の挨拶いたします。どうぞ元気で頑張りましょう。

学長

北村憲司



皆様、あけましておめでとうございます。2015年の新しい日を迎えて、ご家族とご両親と、またご友人との一年の目標を心に誓われたことと思います。

今年の干支の乙羊は樹木がしっかりと根を張り、微かな変化が現れる年であるとされています。福岡歯科大学にとっても今年は、歯科医学学会総会の開催、教育の改善、地域連携、新しい構想に基いた新病院建築などの、来る変化に備えて、しっかりと準備する年になると思います。

福岡歯科大学にとって、来る歯科医学学会総会は本学の歴史に残る大きなイベントです。今回、初めて九州の地で開催されることになり、百年に近い歯科医学学会の歴史においても、特筆される総会になります。本学を世界に広くアピールすることができ、またとない機会です。皆様におかれましても、創意と工夫をもつて、参加者の心に残る大会を作り上げるために、この一年周到な準備を進めていただきたいと思っております。

受験者の状況につきましては、一時の状況は脱しつつありますが、未だ厳しい状況にあります。本学はこれまで、その特長である助言教員制度によって、学生一人一人に目配りし、それぞれの意欲と能力に応じた教育を行ってきました。しかし、これまでの方法では、現在の多様化した学生の資質を十分伸ばすことは難しくなっています。入学者全員が最短年度で卒業し、歯科医師になるという、本学の目標を達成するには、今以上に、学生一人一人の意欲と能力に応じた教育を行うことが求められます。その方法は、すでに確立されたものではなく、それぞれの教員のアイデアで新たに作り上げていかねばならないのです。教育支援教学IR室を中心とした教育プログラムと助言教員SA制度を中心とした生活支援による多様なサービスの提供によって、この問題を解決することが出来るはずですので、教職員の皆様の今一層の努力をお願いいたします。

新病院の建設については、本学の目指す口腔医学を体現する病院を作る絶好の機会です。新病院が口腔医学を実践する日本でも唯一の病院となることを期待いたします。

福岡歯科大学にとって、まだまだ耐える時間が続きますが、教条の光は見えています。その光に向かって教職員が力を合わせて進んでいきたいと思っております。私たちがなすべきことは、着実にその光に向かって歩み続けることです。2015年が、皆様のご家族にとって、充実した一年であることを祈念いたします。

無料相談 地域連携センター、城南区金山公民館主催イベントにて歯の無料相談を開始

南区金山公民館で11月10日に行われたイベント「カフェたまり場」に地域連携センターが参加し、歯の無料相談を行いました。金山校区は、福岡市内でも8番目に高齢化率が高い地区です。丘陵地に集合住宅が密集しており、今後、外出・移動が困難な単身高齢者の増加が予測されています。この問題の解決策の一つとして、金山公民館では昨年1月から「おためしカフェ」を始め、現在は、地域住民が自ら運営する「カフェたまり場」に成長しています。

会場には相談スペースや地域担当保健師による健康相談ブースなどが設けられており、今回から歯の相談ブースが加わりました。初めて設置されたブースには、歯に対する悩み、口腔疾患を持つ方がお越しになりました。



講演 福西会病院「第8回いきいき健康まつり」にて森田浩光准教授講演

11月22日に医療法人福西会 福西会病院の「第8回いきいき健康まつり」において、本学の総合歯科学講座総合歯科学分野 森田浩光准教授が「肺炎と口腔ケアについて」の講演を行いました。

かねてより本学では、口腔医学の実践として「周術期口腔機能管理」を行っており、今年5月から、福西会病院でも森田准教授並びに同講座高齢者歯科学分野内藤徹教授を中心とした訪問診療チームが担当しています。口腔関連合併症の予防について、福西会病院 川原克信病院長をはじめとする多くの先生方から高い評価をいただいております。講演会には数多くの参加者が訪れました。



国際交流

中国医科大学来学
(9月27日～10月5日)

9月27日から10月5日までの8日間、中国医科大学の学生訪問団が、本学を訪れました。中国医科大学口腔医学院とは、一昨年、姉妹校協定を結び、昨年4月には本学より6名の学生と教員2名を研修に派遣したばかりです。

今回の訪問団は、口腔顔面外科の周青教授、補綴科の王蔚教授並びに学生6名の計8名が来学されました。

滞在期間中、6名の学生は医科歯科総合病院にて実習に参加するとともに、本学の基礎系講義を受講しました。来学した学生は興味を持って講義を聴講し、積極的に実習に取り組んでいる姿が印象的でした。

今回の交流は、両国学生の視野や興味を広げるとともに、本学と中国医科大学との更なる交流の発展に繋がっています。



病院実習の様子



対面式

上海交通大学来学
(11月30日～12月5日)

11月30日から12月5日までの6日間、上海交通大学の学生訪問団が本学を訪れました。本学との学生交流は、2006年から毎年行われ、今年度で9回目になります。

今回の訪問団は、口腔医学院 歯科補綴科の焦婷教授、総合歯科の韓俊力助教授(日本では准教授の職級)、学生5名の計7名が来学されました。5名の学生は、保存科、補綴科、口腔外科等の病院実習に参加し、引率の焦教授・韓助教授による本学の大学院生等を対象とした特別講義も行われました。また、一行は太宰府観光等を通じて福岡の歴史にも触れ、充実した6日間を過ごし、無事帰国されました。

昨年4月に上海を訪れた本学の学生は再会を喜び、時間の許す限り上海の学生と交流を深めていました。

このような定期的な国際交流がもたらす輪は、訪問した学生のみならず他の学生にまで広がっており、グローバルな視点や国際感覚を学べる貴重な機会となっています。



病院実習の様子



対面式

福岡歯科大学長に 石川教授就任

平成26年12月開催の第478回理事会の議を経て、福岡歯科大学の第10代学長に就任された石川博之新学長（成長発達歯科学講座 矯正歯科学分野）に抱負をお聞きしました。任期は平成30年1月31日までの3年間です。

「人材の育成」と「キャリア形成の支援」の

視点からの大学教育を目指して

のたび、北村憲司学長の後任として、本学の学長を拝命しました石川博之でございます。大役を仰せつかり身の引き締まる思いを感じておりますが、使命を全うすべく、全力をつくす所存でございます。この紙面をお借りしまして、特に教育に関して、抱負を述べさせていただきます。

近年、歯科医療をとりまく環境は大きく変化しており、歯科疾患の疾病構造の変化や日本社会の急激な高齢化に伴い、口腔機能の回復を主体とした医療への転換と、安心・安全な歯科医療のため、歯科医師には、これまで以上に全身の理解と医学的知識を修得することが求められています。本学では、このような時代のニーズに合った歯科医師の育成のため、医学教育を充実したカリキュラムの構築により口腔医学を推進していますが、さらにフロン

トランナーとしてコア・カリキュラムの構築に向けて進んでいくことが重要に思います。

また、歯科医師の需給問題が叫ばれて久しくなりますが、厚生労働省による平成24年医師・歯科医師・薬剤師調査では、歯科医師数は総数102,551人で、50歳以上の歯科医師は49.8%でおおよそ半数です。50歳代、40歳代、30歳代と次第に歯科医師数は減少していますので、今後高齢化がさらに進行し、また将来の歯科医師数の不足が予想されています。したがって、現在の歯科大学の学生は、一人一人が日本の歯科医療を支える責任のある時代に第一線で歯科医療に従事することにになります。それゆえに活躍の場の広い、まさにやりがいのある職業となることを、本学の学生に理解させることが大切だと思います。

さて、明治期から大正期にかけての代表的な思想家である内村鑑三先生は、長野県中軽井沢の星野温泉に滞在中に激しい歯痛に襲われたそうです。しかし、当地の歯科医院での手厚い治療により疼痛から解放され、その時の喜びを「Dentistry is a work of love」と表現したそうです。その後、この言葉は歯科医療のあるべき姿を象徴する一文として、多くの歯科医療従事者の心に留められています。まさに患者さんに「Work of love」と思っていただけ、そのような歯科治療を提供できる歯科医師の育成が大切であると思います。また、そのような歯科医師を育成するためには、卒前教育での学生、そして卒業後教育を受ける若い歯科医師が

「Education of oral medicine is a work of love」と実感できるような、夢と自信を与える教育が大切であると思います。歯科医師として必要な知識・技術・態度を教育する「人材の育成」の視点と、さらに歯科医師としての彼らの自己実現を支援するという「キャリア形成の支援」といった視点での教育が、教養と良識、そして使命感を備えた有能な歯科医師を世に送り出すことになるのではないかと考えています。

もとより浅学非才の身ではありますが、これから教職員の皆様方のご協力をいただきながら、皆様と共に福岡歯科大学の未来、そして歯科医療の未来に向かって進んでいきたいと思っております。今後ともご指導とご鞭撻をどうぞよろしくお願い申し上げます。



【略歴】
1982年に北海道大学歯学部卒、1986年に同大学院を修了。北海道大学歯学部助手（歯科矯正学講座）、同附属病院講師（矯正科）を経て、2000年11月に福岡歯科大学 成長発達歯科学講座矯正歯科学分野教授に就任。同大医科歯科総合病院長、学校法人福岡学園（旧福岡科学園）理事・評議員などを歴任。また、2014年2月より公益社団法人日本矯正歯科学会理事長を務める。北海道小樽市出身。

本田前常務理事が 顧問に

平成27年1月の理事会の議決により、本田武司前常務理事が2月1日付で顧問に就任されました。同氏は、昭和50年福岡歯科大学講師に就任後、平成6年同大学教授に昇任。同大学附属病院院長、同大学長を経て、平成21年2月から6年間、学校法人福岡学園 常務理事を務められました。



北村前大学長が 常務理事に

平成27年1月の理事会の議決により、1月末に任期満了となった北村憲司前福岡歯科大学長が2月1日付で常務理事に就任されました。同氏は、平成6年に福岡歯科大学教授に就任後、同大学情報図書館長、同大学生部長を経て、平成21年2月から2期6年にわたって福岡歯科大学長を務められました。



公開講座

福岡歯科大学公開講座

第1回

10月4日、よみうりプラザ（中央区赤坂）において、福岡歯科大学公開講座「かたひび：あごの関節を守るー関節の痛みの予防と治療」が開催され、110名の方にご参加いただきました。今年度は、痛みの予防という点からストレッチ体操が取り入れられ、特色ある講座となりました。また、講演後には質疑応答の時間が設けられ、参加者は講師の回答に耳を傾けていました。



第1回講座風景



整形外科分野 井上 敏生教授



口腔外科学分野 米津 博文講師



整形外科 白川 心一朗理学療法士

第2回

11月29日、本館5階502講義室において、福岡歯科大学公開講座「かたひびの関節を守るー関節の痛みの予防と治療」が開催され、103名の方にご参加いただきました。これは、10月よみうりプラザで開催された公開講座が大変好評であり、ご参加いただけなかった方々の要望にお応えするために開催したものです。講演後には病院見学会も開催され、37名の参加者は、普段見ることのできない設備や機械を興味深くご覧になっていました。



第2回講座風景



病院見学会

公開講座

福岡

医療短期大学 公開講座

10月5日、福岡医療短期大学307教室において、福岡医療短期大学公開講座「認知症を考える：地域で支える認知症ケア『現状と課題』：」が開催されました。若年性認知症の夫と、その夫を支えた妻を描いた映画『明日の記憶』のモデルであり、ホームヘルパーの越智須美子さんを迎えての講演に始まり、認知症に対する歯科

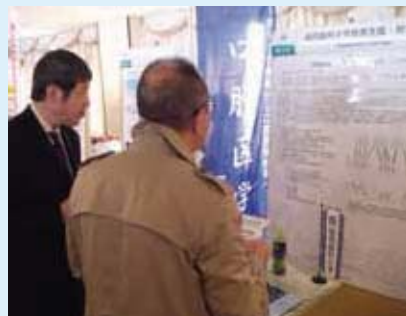
医療からの取り組み、認知症患者を取り巻く地域支援（大牟田市・糸島市・福岡市）の現状報告などが行われました。医師や歯科医師、介護福祉士、一般の方も多く来場され、学内外から123名の参加がありました。



Q・Links（九州地域大学教育改善FD・SDネットワーク）主催

Q・conference 2014（活動報告会）

12月6日、崇城大学池田キャンパス（熊本県）において崇城大学及びQ・Links主催のQ・conference 2014が開催されました。九州内外より多数の大学・団体が参集する中、本学もポスターセッションに参加し、教育支援・教学IR室が進めている学修成果の可視化について発表しました。



発表タイトル：「学修成果可視化への取り組み」

教育支援・教学IR室 電子黒板導入

平成26年度「大学教育再生加速プログラム」の採択に伴い設置された教育支援・教学IR室に「電子黒板」が導入されました。これにより、デジタル教材・資料などをそのまま投影できるため、ペーパーレス化を図ることができ、また、運営会議や定例会議での情報共有や、視覚情報による理解度の向上が期待されます。



福岡歯科大学 口腔医療センター スマートフォンサイト開設

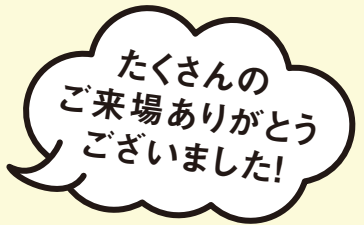
福岡歯科大学口腔医療センターのスマートフォンサイトがオープンしました。診療内容や診療時間に関する情報を掲載しています。

下記のQRコードよりアクセス可能です。是非ご覧ください。



イベント 第10回健康まるごと福岡学園

10月25日、26日の2日間、福岡歯科大学キャンパスにおいて福岡学園の総合イベント「健康まるごと福岡学園」が開催されました。初日は天気恵まれ、2日目は小雨の降る時間もありましたが、近隣の方々をはじめとする多くの来場者で賑わいました。



学園祭「田の歯科祭」

正門北側駐車場を会場として第40回「田の歯科祭」が行われました。ステージでは「ニッチェ」、「ルシファー吉岡」のお笑いライブをはじめ、地域の子どもたちによるダンスや太鼓演奏、学生たちのライブ演奏など楽しいイベントで盛り上がりました。模擬店も様々な内容で出店しており、大変賑わいました。



からだの科学展

本館1階学生ホールと学生食堂では体験型イベント「からだの科学展」を開催しました。実際の歯科材料を使っての体験企画など子どもから大人まで身近な科学に触れ楽しんでいただきました。今年は学生主体の絵本読み聞かせ会や自主研究のパネル展示もあり、約1500名の来場者で賑わいました。



医科ミニ講座

病院1階受付ホールにおいて、医科の先生方による講演を行いました。25日は耳鼻咽喉科、内科、整形外科、26日は小児科、外科、口腔顔面美容医療センター/形成外科の先生方によって身近な病気等のテーマが取り上げられました。



歯科無料相談

26日に歯科の専門医による歯科無料相談を行い、むし歯や歯周病、矯正等、子どもから大人まで100名を超える相談者が来場しました。医科歯科総合病院への来院経験がない方や親子で参加してくださった方もおり、イベントを通して地域の方々へ病院を知ってもらう良い機会となりました。



短大企画「口から始める介護予防」

本館1階学生食堂において、「口から始める介護予防」をテーマに、歯科衛生学科では、歯周病ケアや歯にまつわるクイズ、保健福祉学科では高齢者の介護体験等を行い、約600名の来場者が訪れました。



介護施設見学・介護無料相談

介護老人保健施設サンシャインシティおよび介護老人福祉施設サンシャインプラザにおいて、施設を開放し、施設見学と介護職員による介護相談が行われました。併せて、利用者の方々の作品も展示され、来場者の目を楽しませていました。



イベント 第10回3大学合同シンポジウム 開催

10月26日、本館9階講堂において地下鉄七隈線沿線3大学合同シンポジウムが開催されました。このシンポジウムは、地下鉄七隈線沿線に所在する中村学園大学、福岡大学、本学の3大学の共催で、市民の健康づくりを目指して実施しており、今回で第10回目の開催を迎えました。今年は「高齢社会を楽しく生きる秘訣とは」というメインテーマのもと、各大学の講師からそれぞれの専門分野における講演があり、本学からは総合歯科学講座 米田雅裕教授が「きれいな息で楽しい毎日-口臭ケアで心も身体も元気に-」と題し、講演されました。会場は、多くの来場者で活気にあふれ、来場者の健康に対する意識の高さがうかがえました。

- 総合司会 / 佐藤 博信 福岡歯科大学 口腔・歯学部門長
- 公開討論司会 / 阿南 壽 福岡歯科大学医科歯科総合病院 副病院長

「楽しく食べて健康長寿」 岩本 昌子 中村学園大学 栄養科学部 教授
 「ロコモを予防して元気で長生き」 塩田 悦仁 福岡大学病院 リハビリテーション部 教授
 「きれいな息で楽しい毎日-口臭ケアで心も身体も元気に-」 米田 雅裕 福岡歯科大学 総合歯科学講座 教授



受賞 水田祥代常務理事 第73回西日本文化賞受賞

西 日本新聞社が毎年「文化の日」に贈る「第73回西日本文化賞」を、本学の水田祥代常務理事が受賞されました。この賞は、学術、社会文化の発展に尽力した九州ゆかりの個人や団体に贈られるものです。

11月3日、福岡国際ホール(中央区天神)で贈呈式が行われました。水田常務理事は、長年小児外科医療の臨床、研究に取り組み、数々の顕著な業績を挙げ、日本の医療の充実、発展に寄与されました。また、九州大学医学部教授、九州大学病院院長、九州大学理事・副学長を歴任した経緯もあわせて受賞理由として評価され、顕彰されました。



表彰 平成26年度 文部科学省 医学教育等関係業務功労者表彰

11月20日、ホテルフロラシオン青山(東京都港区)において平成26年度医学教育等関係業務功労者表彰式が行われ、臨床検査室の武内唯織さん、歯科衛生士部の葛城明美さんが受賞しました。この表彰は、文部科学大臣が、大学における医学又は歯学に関する教育、研究若しくは患者診療等に係る補助的業務に長年従事し、顕著な功績のあった者に対し毎年行っているものです。



井上 廣名誉教授 ご逝去

福岡歯科大学の井上廣名誉教授が平成26年12月22日逝去されました。同氏は、昭和51年1月に助教に就任(歯科保存学第I講座)、昭和55年10月に教授へ昇任。平成6年には臨床教科主事、平成14年4月から平成18年3月までの間は、本学口腔治療学講座主任教授として学園および大学の発展のために尽力され、平成18年6月20日に福岡歯科大学名誉教授の称号を授与されました。享年74才。合掌。



教員紹介

新任

林 健志 客員教授

〔略歴〕東京大学理学部卒。金沢大学薬学部助手、国立がんセンター研究所生化学部 研究員(この間NIH国際交換リサーチフェローとして米国カリフォルニア工科大学Norman Davidson教授と研究)、同主任研究官、同室長、九州大学遺伝情報実験施設ゲノム構造学分野 教授、九州大学生体防御医学研究所教授、同特任教授等を経て、平成26年10月本学客員教授に就任。



〔抱負〕これまで、染色体構造研究、がんの分子生物学、ヒトゲノム配列の多様性研究等、医学生物学の基礎研究に携わって来ました。これからは此処福岡歯科大学で科学の進歩に寄与することの意義、楽しさを多くの若い人たちに伝えたいと思っています。

新任 病態構造学分野

橋本 修一 教授

〔略歴〕熊本大学医学部卒。九州大学大学院医学系研究科博士課程修了、同大学院病理病態学分野(病理学第一講座)助手、同大学院胸部疾患研究施設助手、米国立ペンシルバニア大学医学部病理学研究室、同大学環境労働衛生学研究室、米国立デューク大学医学部呼吸器病学及び細胞生物学研究室、熊本大学大学院機能病理学分野准教授を経て、平成27年1月本学病態構造学分野教授に就任。



〔抱負〕社会的要望に応えられるよう、良き歯科医師、歯-医学研究者の育成をめざします。研究では、主に再生医療、癌の幹細胞をターゲットとした臨床につながる基礎的研究を行い世界に向けた最先端の研究成果の発信をめざします。また、医科歯科総合病院にふさわしい質の高い病理診断をめざし、医療の発展に貢献していく所存です。

新任 歯科保存学分野

松崎 英津子 講師

〔略歴〕長崎大学歯学部卒、九州大学大学院歯学府歯学専攻博士課程修了。九州大学病院歯周病科助教を経て、平成26年10月本学口腔治療学講座歯科保存学分野講師に就任。日本歯周病学会専門医。博士(歯学)。



新任 外科学分野

齊藤 信明 講師

〔略歴〕福岡大学医学部卒。福岡大学病院消化器外科、浜の町病院、おんが病院、福西会病院等を経て、平成26年10月本学講師に就任。博士(医学)。



昇任 有床義歯学分野

川口 智弘 講師

〔略歴〕福岡歯科大学歯学部卒、同大学医科歯科総合病院臨床研修歯科医師、同大学院(有床義歯学分野)を修了。同大学助教を経て、平成26年10月同大学咬合修復学講座有床義歯学分野の講師に就任。博士(歯学)。



福岡医療短期大学 保健福祉学科長再任

大倉 義文 教授を再任

福岡医療短期大学 保健福祉学科長に大倉義文教授が再任されました。任期は平成26年12月1日から平成29年11月30日までです。



慰霊祭 第39回
献体者慰霊祭

10月9日、萬行寺(博多区祇園町)において第39回献体者慰霊祭が執り行われました。ご遺族をはじめ、福岡歯科大学生および学内外の関係者454名(学外213名、学内241名)が参列し、献体者の尊い御霊の冥福を祈りました。



慰霊祭 第39回
実験動物慰霊祭

10月16日、本学動物慰霊祭 碑前において第39回実験動物慰霊祭が執り行われました。日頃、アニマルセンターを利用し、実験等に携わる関係者が参加し、実験動物たちの安らかな眠りを祈りました。



シンポジウム
平成26年度
再生医学研究センターシンポジウム

10月31日、本館5階504講義室において、平成26年度再生医学研究センターシンポジウムが開催されました。今回は、日本大学医学部 機能形態学系細胞再生移植学 松本太郎教授による「脱分化脂肪細胞の特性と細胞治療への応用」と題した講演が行われました。参加者は再生医療の最新の研究成果を熱心に聴講し、講演後には多くの意見交換が行われました。



総会
第41回 福岡歯科大学学会総会

12月14日、本学において第41回福岡歯科大学学会総会(会長 冠橋義南学分野 佐藤博信教授)が開催され、学内外から2990名の参加がありました。一般口演発表、ポスター発表に続き行われたシンポジウムでは「予防口腔医学の推進」をテーマに講演が行われました。また、講演後には演者によるデイスカッションが行われ、活発な意見交換が行われました。なお、学会総会における学会賞には瀧内博也氏(高齢者歯科医員)と、勝俣由里氏(口腔外科学分野 大学院2年)が選ばれました。

講演1 「高齢者の食力」を維持するために:
サルコペニア(加齢性筋肉減弱)予防から再考する」
東京大学 高齢社会総合研究機構 飯島勝矢 准教授

講演2 予防とメンテナンスを核としたチーム医療
医療法人社団 友優会 江崎デンタルクリニック 江崎友大 院長(4期生)

講演3 「予防口腔医学」からみた口腔感染症における免疫応答
福岡歯科大学機能生物化学講座 感染症生物学分野 田中芳彦 教授

講演4 「口が乾く(乾燥する)ということ」ドライマウスを再考する」
医療法人 恵光会 原病院 歯科・口腔外科 原 部長(9期生)



クリスマス会
「クリスマス・忘年会」

12月21日、介護老人保健施設サンシヤインシヤにて「クリスマス・忘年会」が行われました。入所者や職員による出し物などが披露され、入所者や利用者、ご家族、職員らともども大いに賑わい、楽しいひと時を過ごしました。



New Sophia「水の如し」

ソートレスネス

試験を採点する際、記述式の回答は誤字脱字に辟易しながらも、文章から立ちのぼる学生の苦心をそれなりに味わうことができますが、5肢選択の問題は、指だけが機械的に○×をつけて自分の頭が空っぽでいることに気がつきません。最近ハンナ・アーレントの評伝(中公新書)を読みましたが、その中で印象に残っている言葉は「ソートレスネス (thoughtlessness)」です。アーレントはユダヤ人で、ナチスを逃れアメリカに亡命した女性思想家です。彼女はなぜドイツでホロコーストが実施されることになったのか、その原因である全体主義について徹底的に考えた人です。その原因の一つがソートレスネス、つまり民衆の思考停止です。民衆ばかりでなくエリートたちも無思考のままイデオロギーや権力に従ってしまった結果、ホロコーストに至ったという訳です。ホロコーストの実施者アイヒマンはその証言で、私は上からの命令に従っただけのことであり責任はないと云います。情報やマニュアルが氾濫する時代、私たちは機械的に○×して思考停止していないでしょうか。そんな時、書物を手にとって指で頁をめくり、手問ひまかけて読み、「考える」ことが必要ではないでしょうか。

佐賀県同窓会・学術講演会

泉福 浩志(22期生)

外科処置なんか怖くない！日常臨床で遭遇する症例

去 平成26年9月20日(土)午後6時30分よりホテルニューオータニ

佐賀において福岡歯科大学口腔医療センター講師 中山敬介先生をお招きして学術講演会が開催されました。中山講師は佐賀県唐津市のご出身で、福岡歯科大学を第20期で卒業。その後、福岡歯科大学大学院歯学研究科歯学専門博士課程(口腔外科Ⅱ)にご入学され、平成26年3月に歯学博士の学位を取得、平成26年4月より福岡歯科大学口腔医療センター講師にご就任されておられます。また、大学内の佐賀県人会においても学生のお世話を積極的に行っていました。

今回は主に、日常臨床において遭遇する外科的トラブルの対処について講演いただきました。局所麻酔を行うに



あたつての注意事項、解剖学的観点からみた効果的な刺入点、外科の基本的な手技、日常遭遇しやすい症例における抜歯手技等を丁寧に説明していただきました。また、損傷を起こした際の誤った考え方と現在の対処法などについても解説していただき大いに参考になりました。会場からも多くの質問があり、定刻をオーバーしてディスカッションが行われました。

その後、同会場にて懇親会が行われ、寺尾隆治同窓会顧問にもご参加いただき、大変盛り上がりしました。中山講師におかれましてはご多忙のところ、佐賀県同窓会学術講演会にお越し頂き、佐賀県会員一同大変感謝申し上げます。ありがとうございます。

卒業生 NOW

ダイビングに魅せられて

上島 忠(29期生)



こんにちは。福岡歯科大学29期生の上島と申します。在学時はバスケットボール部に所属し、卒業は本大学の成長発達歯学講座の小児歯科学分野にて、本川教授のもと3年間学ばせて頂きました。その後、現在まで糟屋郡にて勤務医として勤めています。

小児歯科に在籍していた時には考えられませんでした。子どもから大人まで、様々な治療を経験させて頂いています。また、診療後には、同窓生の多く所属する勉強会に参加させて頂き、多くの刺激を受けると同時に、歯科医療の研鑽に努めております。

そんな中、先日社員旅行で沖縄に行く機会があり、人生初めてのダイビングを経験する事となりました。普段は自分の呼吸について考えたことはほとんどありませんが、ダイビングでは否が応でも呼吸について考えさせられます。歯科で推奨される鼻呼吸ではなく、歯科では問題とされる口呼吸ができないといけません。頭では理解していても海の中に入ると息苦しく、すぐにリタイアしたくなりました。しかし、口呼吸に慣れると、周りの景色を見る余裕ができて、海から出る頃には、すぐにも再び海に潜りたいと思うまでになっていました。

ここまで自分がダイビングに魅せられるとは思ってもよらず、自分の世界が広がる喜びを感じることができました。



このことは歯科医療においても、同じことが言えるのではないのでしょうか。新しいことにチャレンジしていく事で、楽しみながら診療を行う事ができると考えます。再び美しい海に潜れる日を夢見ながら、このような機会をいただいた院長とスタッフに感謝し、新しいことにもチャレンジして日々の診療を楽しみたいと思います。

同窓生からの手紙

福岡歯科大同窓会学術委員会

学術常務理事 葛西 秀夫(6期生)

現在学術委員会は、学内理事6名、学外理事16名の合計22名で構成されており、委員会は隔月6回開催し、事業計画を話し合っております。年間の活動は、年1回の学術講演会、臨床セミナー、ICOI Fellowship養成コース、年3回の臨床スキルアップセミナーを開催しております。

今年度の講演会は、平成27年2月11日(水)「天然歯保存の可能性を探る」をメインテーマに、福岡歯科大学口腔治療学講座 歯科保存学分野 阿南壽教授、同窓生10期の白石和仁先生、大阪市開業の福西一浩先生に、エンドペリオを治療する立場からのご講演をお願いしております。臨床セミナー「審美から始まるホワイトニング」は3月8日(日)福岡歯科大学口腔医療センターの研修室にて開催予定です。ICOI Fellowship養成コースも6回目を迎え多くの先生が認定医を取得されております。また2013年度より、日常臨床で重要なテーマについて福岡歯科大学講座、同窓開業医、他大学開業医の先生から最新の情報を提供していただき、皆様の臨床に役立つ内容の「臨床スキルアップセミナー」を新しく企画しました。2014年度は参加者多数により、会場を福岡県歯科医師会館5階視聴覚室に移し、第1回セミナーは「抜歯」、第2回「MTM」、第3回は「総義歯」で開催しました。2015年度臨床スキルアップセミナーは「患者さんの総合的な治療計画を考慮」をテーマに、6月25日(木)「エンド」、8月27日(木)「ペリオ」、10月22日(木)「修復」を予定しております。

今後も学術委員会活動を通じて時代の変遷に適応し進化をしながら、母校と共に同窓会も成熟してさらなる充実した魅力ある同窓会づくりに貢献出来たら幸いです。今後とも同窓各位のご協力を宜しくお願い致します。

「己を信じて！」

こ んにちは！24期生の荻野真介です。

卒業後は福岡歯科大学総合歯科学講座に入局させていただいておりましたが、歯科医師である父親が脳梗塞で入院したため、2年目の春には実家の歯科医院に戻り、右も左も解らないままに毎日の診療をこなしました。幸い父親は後遺症もなく無事に退院し、元気に暮らしておりますが、そんな日々からもう13年もの月日が「あつ」という間に流れました。

そんな中、歯科医院を新築するという一世一代の大決心をし、無事に平成26年9月29日に開院する事ができ



荻野 真介 (24期生 / おぎの歯科医院(福岡県糸島市))



ました。設計や設備にもしっかりと拘り(当たり前ですが…)、糸島市という田舎町ではありますが都心部にも負けない医院が完成したのではないかと思っております。しかし!!私の両肩には多額の借金が…もうやるしかない、やるしかないのだ!!そう自分に言い聞かせながら毎日奮闘しております。

ある時、亡くなった親友が夢に出て来て僕にこう言いました。「荻野は自分が信じる道を進めば大丈夫だよ。」

そう、自分を信じる。そして周りの支えてくれる人々を信じて突き進む。とにかく前を向いて。壁はぶち壊して乗り越えればいいのだから。これから、スタッフとの連携に更に力を入れて頑張りたい。もちろん、趣味の釣りやゴルフなどの遊び心と家庭を忘れずしっかりと頑張っていきたい!!

最近、運動不足でお腹が成長しておりますが、健康管理は怠ることなく、精進していきたいと思えます。

「日々進歩する歯科医療と超高齢社会のはざままで」

皆 様、お元気にお過ごしでしょうか?26期卒の田代剛です。

早いもので卒業してから10年が過ぎ、社会人としてもDRとしても責任ある立場になろうとしています。

学生時代の成績はぎりぎりながらも卒業し、福岡歯科大学医科歯科総合病院(補綴(入れ歯)科)で1年間臨床研修医として過ごし、研修終了後はそのまま医員として2年間医局に残りました。

研修医当時は福岡医療短期大学が2年制から3年制となる転換期で、1年間登院実習生がいない空白の期間で、さらに研修医制度が施行される前で研修医数が現在より少ない時期でもありました。上司の先生方からの指導をみっちり厳しく受けた濃密な期間でした。現在の歯科に向き合う自分の根底をその頃の経験が形作っているのでは無いかと思えます。そのころの同期の仲間とは、戦友のような絆で今もつながっています。

大学を出た後、熊本県八代市の医院で2年間勤務し、一旦地元へ帰ったものの在宅歯科診療の重要



田代 剛 (26期生 / 田代歯科医院(佐賀県唐津市))



性を感じ、福岡県飯塚市の同窓の美甘先生の医院で訪問診療に2年間従事しました。その後、佐賀県唐津市の実家の医院で父と共に診療しております。

訪問診療に従事した2年間、院内しか知らなかった私にとつて貴重な体験ばかりでした。その体験を生かし、患者さんを生涯に渡り責任をもって診てゆくため、先進的な医療と、在宅歯科医療の両方が充実した医院を目指して日々頑張っています。

最近、健康寿命とよく耳にしますが、健口寿命と言ひ換えても過言ではないと思っております。健康とは心身共に健全であること。歯科医師の使命は、生涯にわたつて健口を守り、幸福な生活を見守ることだと考えています。今後、患者さんの訴えを診るだけでなく、コミュニケーションをしっかりすること、患者さんの心も含めた、生涯に係わる口腔内全体の問題をとらえる様に努力してゆきたいとおもいます。

学生からのメッセージ

変わる自分、見えてきたもの



今年度の第40回回の歯科祭の実行委員長を務めさせて頂きました黒木翔太と申します。今までは、

高校時代にも生徒会や文化祭実行委員などをしてきましたがこの大学での学園祭実行委員をしているときがそれらの中で特にインパクトのある時間でした。

なぜなら、この大学の学園祭の運営はそのほとんどが学生の自主性に任せてあり、自分たちで考えどのようにすれば参加してくれる方が楽しんでもくれるだろうと色々試行錯誤していかねばならなかったからです。その中で、実行委員に入ったばかりの下級生からいきなり面白いアイデアが生まれたり、今までに無かったような企画を他のメンバーが考えてきたりなど、委員長の自分がとても驚くようなことがたくさん起きました。実際、

黒木翔太（福岡歯科大学4年）

最初は実行委員会でのトップという立場に不安や緊張感を持っていましたが、仲間たちと仕事をこなしていく中で、不安などが確かな自信へと自分の中で変わっていくのを感じることが出来ました。

このように学園祭を学生主体で運営していく中で改めて実感したのが、大学の職員の方々が必要不可欠な存在だということ。学生である自分たちに代わって地域の皆様に広報して下さったり、いろいろと自分たちでは処理できないような問題を一緒に解決してくださったり、ここに書ききれないほどの感謝を職員の皆様には感じております。

最後に、今年度、学園祭を行うにあたって、関わって下さった全ての皆さまにこの場を借りてお礼をさせて頂く。本当にありがとうございました。



充実した日々



私が所属している「ダンス愛好会」は、短大初のクラブ活動として立ち上がり2年が経過しました。

これまで長崎でダンスをしていた私は、入学当初、友達とダンス部を立ち上げたいと福岡医療短期大学長にお願いしたところ、快く了承してくださり、短大初のサークルとして活動を開始させることができました。現在、所属メンバーは2年生7名、今年新たに加わった1年生9名で小規模ではありますが、活動中です。

立ち上げ当初は、メンバーも初心者が多く、何から教えたらいのか分からず不安でしたが、ただダンスが好きという仲間の絆から、今では楽しくワイワイガヤガヤ集いながら踊っています。これまでに、学園祭やサンシャインシティの夏祭り、クリスマス会に参加させてい

吉永

守里（福岡医療短期大学 歯科衛生学科 2年）

ただきでしたが、悩みはメンバーがそれぞれ実習やバイトなどで忙しく、全員揃って十分に練習ができないことです。しかし、ダンス好きのメンバーですから、「かっこよかったよ!」「また見たい。」などと声をかけてもらうことで、「よし、次も頑張ろう!」という気持ちからお互い時間をやりくりして、発表当日に向けて励んでいます。残念ながらダンスを披露する機会が少ないのも悩みの種で、もう少し発表する場が増えるといいなと思っています。

ダンス愛好会の活動を通じて、またリーダーという立場になって多くのことを学びました。人や演技・意見をまとめるということの難しさですが、この経験を生かして、3年次の臨床実習に臨みたいと考えています。



保護者様からのメッセージ

社会の要求に応えられるように

現在の日本は超高齢社会となり、有病者の歯科治療を行う回数や訪問歯科診療の要請が増えています。そこで、今後、歯科医師は他医療介護職との連携を行う必要がより一層増えてくると思われれます。また、一方では、患者さんのなかには歯科医師は医師と同じぐらいの医学的知識を持っていると思っっている方が多くおられるのも事実です。

私が学生時代だった30数年前は、授業や実習では歯科独特の知識や手技を取得するのが殆どであり、内科をはじめとする隣接医学の講義は時間的には多くなかったと記憶しています。これからの歯科医師は一般的な歯科治療はできて当たり前で、他医療介護職との連携を図りながら歯科診療を行っていくことがこれからの社会の歯科医師に

対する要求に思えます。

現在、私の二人の子どもが福岡歯科大学で学んでいます。そのカリキュラムを見ますと比較的低学年の時から医療・介護の講義実習があり、歯科医師に対する要求にに応じているように思えます。歯学ではなく「口腔医学」を推進する大学で学べるのは幸運ではないかと思えます。

最後に、学生諸君には「勉強する時には勉強する。遊ぶ時には遊ぶ。」とメリハリをつけ、大いに勉強し、教養を身につけて、将来社会に役立つ歯科医師となつてもらいたいと思います。



佐藤 靖臣 様 (父兄後援会理事)

これからの歯科界を担う皆様方へ

私の診療所は1924年、大正13年に祖父が開業以来、父として私と歯科医業を継承し、今年で無事90周年を迎えることができました。祖父が開業した当時は歯科医師も少なく、国民皆保険制度もなく、口腔衛生に対する意識も低く、治療する側もされる側も大変な時代であったでしょう。

父も1時間待ちの3分治療と揶揄される程の力エスの洪水の中で、午後の診療を終えた後、慌ただしく夕食を取り、午後9時まで診療をしていました。夜は夜で、金属を鋳造し、義歯を作るなど休む暇もなく働いていました。現在と比べるとまさに隔世の感があります。

昨今の歯科界をみると、口腔衛生に対する関心の高まり、フッ化物塗布等により、力エスは減少し、その結果、我々は力エスを削ぎ充填する、根管処置をして被覆冠にする、歯周病の歯を抜歯して義歯を装着するという旧態依然の診療所から、歯周病、力エス予防やメインテナンスを主体とし

た口腔内の健康維持、増進を目的とした予防中心の新しい形態の診療所へ移行していく必要があります。特にこれからは自院のコンセプトを持ち、スタッフ全員がコンセプトの意味を共有しながら診療をしなければ淘汰される時代がやってくると思えます。


2000年にM-3（ミミルインターベンション）、最小限の侵襲の歯科治療が推奨されて以来、当院のコンセプトは早期発見、定期管理です。歯科医師の誰もが歯は削れば削る程悪くなり、力エスと歯周病は予防できることを知っているからです。上顎前歯のエナメル質の美しさは、まさに神が作り賜った造形美です。この造形美を守るために微力ながら地域医療に貢献していきつづけます。4代目は第4学年に在籍しています。



村橋 秀夫 様 (父兄後援会理事)

平成27年度 入学試験日程

福岡歯科大学

口腔歯学部					
区分	一般入試A日程	センター試験利用入試I期	一般入試B日程	センター試験利用入試II期	AO入試II期
募集人員	約47名	約5名	約10名	約2名	若干名
願書受付期間	H27.1.5(月)～1.30(金)		H27.2.2(月)～3.5(木)		H27.3.2(月)～3.20(金)
試験日	H27.2.2(月)		H27.3.6(金)		H27.3.23(月)
合格発表日	H27.2.4(水)午後5時		H27.3.10(火)午後5時		H27.3.24(火)
試験会場	福岡歯科大学試験場及び東京試験場		福岡歯科大学試験場		
問合せ先	〒814-0193 福岡市早良区田村2-15-1 福岡歯科大学学務課入試係 TEL.092-801-1885(直通) FAX.092-801-0427 ●ホームページURL http://www.fdcnet.ac.jp ●E-mail gakumu@college.fdcnet.ac.jp ●携帯電話及びスマートフォン用ホームページURL http://www.fdcnet.ac.jp/col/deviceselect.html				 ◀携帯電話からのアクセスはこちら!

福岡医療短期大学

歯科衛生学科						専攻科・口腔保健衛生学専攻	
区分	一般入試A日程(社会人含む)	一般入試B日程(社会人含む)	一般入試C日程(社会人含む)	一般入試D日程(社会人含む)	AO入試(社会人含む)	二次募集	三次募集
募集人員	約15名	約5名	若干名	若干名	約35名	約5名	若干名
願書受付期間	H27.1.5(月)～28(水)	H27.2.2(月)～9(月)	H27.2.16(月)～3.4(水)	H27.3.9(月)～23(月)	詳細は入試係までお問い合わせください。	H27.1.5(月)～28(水)	H27.3.9(月)～23(月)
試験日	H27.2.1(日)	H27.2.12(木)	H27.3.6(金)	H27.3.25(水)		H27.2.1(日)	H27.3.25(水)
合格発表日	H27.2.5(木)	H27.2.19(木)	H27.3.12(木)	H27.3.26(木)		H27.2.5(木)	H27.3.26(木)
試験会場	福岡医療短期大学					福岡医療短期大学	

保健福祉学科					
区分	一般入試A日程(社会人含む)	一般入試B日程(社会人含む)	一般入試C日程(社会人含む)	一般入試D日程(社会人含む)	AO入試(社会人含む)
募集人員	約5名	若干名	若干名	若干名	約15名
願書受付期間	H27.1.5(月)～28(水)	H27.2.2(月)～9(月)	H27.2.16(月)～3.4(水)	H27.3.9(月)～23(月)	詳細は入試係までお問い合わせください。
試験日	H27.2.1(日)	H27.2.12(木)	H27.3.6(金)	H27.3.25(水)	
合格発表日	H27.2.5(木)	H27.2.19(木)	H27.3.12(木)	H27.3.26(木)	
試験会場	福岡医療短期大学				

問合せ先	〒814-0193 福岡市早良区田村2-15-1 福岡医療短期大学入試係 TEL.092-801-0439(直通) FAX.092-801-4473 ●ホームページURL http://www.fdcnet.ac.jp/jcol/ ●E-mail gakumuj@college.fdcnet.ac.jp ●携帯電話用ホームページURL http://www.fdcnet.ac.jp/jcolhp				 ◀携帯電話からのアクセスはこちら!
------	--	--	--	--	---

キャンパス歳時記

恒例の餅つき開催

12月26日、本館玄関ホールにおいて毎年恒例の餅つきが行われました。役員や教職員他約200名の参加者は、準備していたもち米30Kg分のつきたての餅を、ぜんざいやおろし大根、温かい豚汁などで味わいながら親睦を深めました。



編集後記

紙面でお送りしましたように10月には学祭がありました。私事で恐縮ですが、学祭にて学生たちと共同で或る催し物をしました。私にとっては新たなチャレンジで、学生と協働するのは教師にとって喜びだと再認識できました。教師にはしばしば指導力が云々とされますが、共に作り上げる喜びを学生に伝えるのも教師の大事な務めでしょう。(NT)

福岡医療短期大学特別奨学生決定

平成26年度1年次特別奨学生に次の4名が選ばれ、11月10日に本館第1会議室において表彰式が執り行われました。特別奨学生は、当該年度の授業料の半額が免除されます。



歯科衛生学科 尾田 真衣香



歯科衛生学科 鳥羽 さつき



歯科衛生学科 末松 千佳



保健福祉学科 日高 志穂